

【高等学校・職業や就業体験に関わる体験活動】

『将来を見通した進路学習』としての「事業所体験学習」・「職業別懇親会及び進路講演会」  
栃木県立石橋高等学校

学校の概要

学校規模

学級数：18学級

生徒数：728名

教職員数：50名

体験活動の視点からみた学校環境

石橋町は、宇都宮市に隣接する人口2万人の町である。

町の行政、民間ともに本校の教育活動に協力的である。

本校は、創立77年の伝統をもち、ほぼ全員が国公立大学への進学を希望している。また、地域社会の中核として活躍している卒業生が多い。

連絡先

〒329-0511

栃木県下都賀郡石橋町845

電話 0285-53-2517

FAX 0285-52-2376

ホームページ：

<http://www.ishibashi-h.ed.jp/>

電子メール：shinro@ishibashi-h.ed.jp

体験活動の概要

活動のねらい

継続的な将来を見通し3年間の進路学習の中の1年時における職業研究の一環として実施し、体験的な学習を通して職業観を養い自己の在り方・生き方を考えさせる。

2年時からの文系・理系選択を職業と学問を連携させて考えさせる。

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

1学年生徒全員対象である。

「事業所体験学習」は最大3日間

「職業別懇談会及び進路講演会」は2時間

「事業所体験学習」は県内・関東一円の約70事業所で受け入れ可能

事前・事後指導を行っている。なお、報告書作成は、生徒がコンピュータを利用して作成するよう指導している。

「将来を見通した進路学習」は、総合的な学習の時間に位置付けている。

体制の工夫

進路指導部・第1学年で実施運営に当たる。

活動の成果等

2学年での文理選択の一助となっている。

職業と学問の関係に気づき、2年時の学科研究及び3年時のテーマ研究へと連動している。

明確な学習目標をもった進路決定ができています。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

- ア 一人一人の個性を伸ばし、実りある進路実現を図るため、早期に進路観・職業観を育成するため、体験を通して自己の在り方・生き方を考察させる。
- イ 個人及びグループで課題を設定し、調査研究や発表の場を設けることで、知識・技能の深化・総合化を図る。
- ウ 職業人からそれぞれの職業の実態等の話を聞き、自己理解を深めるとともに職業理解、働くことの意味や喜び、勤労への意欲を喚起する。

### (2) 全体の指導計画

#### ア 活動の名称

『将来を見通した進路学習』としての「事業所体験学習」・「職業別懇談会及び進路講演会」

#### イ 実施学年

第1学年

#### ウ 活動内容

##### 「職業別懇談会及び進路講演会」

学年全体で進路講演を聞いた後で、分科会形式で懇談会に参加する。働くことの厳しさ、意味、喜びを具体的に聞くことで、職業理解を深め、「事業所体験学習」への動機付けとする。

##### 「事業所体験学習」

第1学年では職業研究を実施している。自己理解のもと将来の夢を描かせることが目標である。上記の「職業別懇談会及び進路講演会」で動機付けをし、勤労体験を通して大人社会を肌で感じさせ、働くことの意味を考えさせたい。更に自分の希望する職業に近い内容で体験させられるよう生徒の希望をもとに体験先を割り振りする。

#### エ 教育課程上の位置付け

活動内容は「総合的な学習の時間」に位置付けている。

#### オ 実施期間(日数や時間数)

(ア) 職業別懇談会及び進路講演会は、7月上旬に実施する。

(イ) 事業所体験学習は、10月15日(月)、16日(火)、17日(水)の最大3日間実施する。事業所によっては1日のみや2日間の場合もある。最小の1日間で6時間としている。

(ウ) 事業所体験学習については、事前・事後指導の時間設定がある。

#### カ 活動場所

県内・関東一円の事業所・官公庁等約70事業所で実施している。

#### キ 継続の状況等

平成9年度から実施してきた。事業所の85%が現在まで5年間受入れの賛同を得ている。事業所によっては本校生の受入ソフトを作成しているところもある。実施に当たっては、毎年実施後に当該学年担当者と進路指導部で反省点を確認し、教職員の役割分担等の見直しや改善意見を取り入れ、運営上の改善を行い現在に至っている。本校職員の共通理解と協力、受入事業所の協力・奉仕の精神をもって今後も継続実施していく予定である。更に、1学年

での職業研究は2学期に本校で実施する大学教員による全校生徒対象の『1日総合大学』の講義へと連動させ、2学年での学部学科研究へと関連付けている。3学年では、生徒の志望する学科に関連したテーマを設定し、テーマ研究を行うなど、3カ年で職業と学問に対する意識の高揚に努めている。

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導（進路学習ノートを活用して、以下のように指導している。）

ア 職業適性検査を実施する。本人の意識していなかった適性などを理解させ、広く職業を調べる機会とする。（5月）

イ 職業研究を2回実施する。様々な資料を活用して、自分の希望する職業を調査研究する。（6～7月）

ウ 「進路講演会及び職業別懇談会」を実施する。職業人の講話を聞き、自分の希望する職種の懇談会に参加する。終了後に自分の気持ちや関心をもったことなどを小論文にまとめる。（7月上旬）

エ 学年集会で、「事業所体験学習」の実施の意義や各事業所の研修内容の説明をする。（9月上旬）

オ 体験学習先ごとに指導会を行い、責任者決定、研修場所の確認、各事業所からの要望・連絡事項等を徹底する。（9月中旬）

カ 事前研究など（事前研究・依頼状・礼状・質問票の作成）の指導を行う。

キ 生徒指導部による礼法指導を実施する。（9月下旬）

ク 直前指導会を実施し、各事業所ごとの種々の連絡事項等の最終確認を行う。

### (2) 活動の展開

事業所体験学習当日、生徒は各自の受入事業所に出かける。それぞれの体験学習を終了した時点で学校のグループ代表が電話連絡をする。

### (3) 事後指導

ア ホームルームごとにコンピュータを利用して、報告書及び礼状作成の指導を行う。

イ ホームルームごとに体験学習報告会を実施し、全員が各自の報告をする。

ウ 事後アンケートを実施する。また、同時期に保護者に対する「職業意識育成」に関するアンケートを実施する。

## 3 体験活動のための体制

### (1) 学校の体制、家庭や地域、関係団体・施設・機関等との連携

ア 各事業所・関係団体・施設・機関等との連携は、進路指導部が中心となって進め、細部にわたる連携・打合せは第1学年副担任が担当している。

イ 「事業所体験学習」実施後に行う職業観育成に関する保護者アンケートでは、第1学年保護者全員に協力を得ている。

### (2) 活動の場や指導者の確保等の手だて

ア 「職業別懇談会及び進路講演会」の講師は、本校同窓会・PTA、本校教職員の人脈を活かし、確保に努めている。

イ 「事業所体験学習」の受入事業所の開拓・交渉は、進路指導部スタッフを中心とした本校教職員で当たった。また、商工会議所、宇都宮市中心街の商店経営者のグループ、地元石橋町役場、本校同窓会組織の協力を得て、受入事業所の確保が可能となった。

### (3) その他

本校は、男女共学校でほぼ全員が大学等に進学している。平成8年度に生徒一人一人の個性を伸ばし、実りある進路実現を図るためには、早期に進路決定に資するための望ましい職業観の育成を図る具体的な方途を探ることが急務であることが確認され、3カ年の継続的・計画的かつ体験的な進路学習を推進することとした。この事業を推進する上では、本校教職員の熱意と協力体制が実現への原動力となった。また、同窓会の惜しみない支援体制があったことは特筆すべきことである。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

活動後に生徒を対象に実施したアンケートによれば、体験学習は「楽しかった」と答えた者が63%もあり、これは仕事内容を「よく理解できた」者が61%いることと関連していると考えられる。教科の学習とは違った知る喜びを感じたようであり、各事業所のきめ細かな指導がうかがえる。また、人間関係の大切さを改めて実感できたことも挙げられる。更に、「働くことの厳しさ」を64%の生徒が感じており、クラス報告会でも一つのことを成し遂げるには様々なことに配慮する必要があり、仕事の厳しさが理解できたとの報告もあった。保護者アンケートにおいても、「人間関係の重要性」を理解させたいとの保護者の要望があり、生徒の実感した内容と一致している。また、体験学習後にほとんどの家庭で子どもと将来の職業について話題になったとの結果も出ており、「事業所体験学習」が職業観・勤労感の育成に大きな意味があることがわかる。

### (2) 課題

教科の授業時間を確保する観点から、実施時期について見直しを行うほか、生徒による活動の自己評価の方法について検討することとしている。

## 5 今後の取組

### (1) 次年度に向けての改善の方向

「職業別懇談会及び進路講演会」の講師派遣依頼を経団連の協力を得ていく方向で検討している。また、実施時期・時間帯についても生徒にとって有効となるよう検討を進めている。

### (2) 「事業所体験学習」の事前・事後指導の在り方を検討し、更に充実させていきたい。

#### 【本事例活用に当たっての留意点】

普通科高校にあっても、卒業し進学した生徒はいつか職業選択と向き合うことになる。また、進学先で何のために何を学ぶのかをはじめ、学校での学習・学問と将来の進路との関連などについてしっかりと考える場を設け、「学ぶことの意義」の理解や目的意識・学習意欲の向上などを図ることが大切である。本校の事業所体験学習は、そうした場の一つとして明確に位置付けられている。単に職業・仕事の世界やその内容を網羅的に学習するのではなく、生徒が体験を通してその実像を把握し、自己理解を深め自らにふさわしい職業や進路が現実感をもって見るようにする上で大きな成果をあげている。また、この事業所体験学習を核とした1年次の職業研究から、2年次の学科研究、3年次のテーマ研究につながる全体計画のもとに系統的に展開されている、普通科での貴重な実践である。